

学校だより

あ お ぎ り

No.7 平成22年7月26日
須坂市立森上小学校

1学期終わる

入学式・始業式から数えて、早4か月弱。本日をもって1学期が終わりました。

遠足や音楽会、そして5年生の峰の原自然体験学習などの大きな行事は、いずれも天候を心配しながらも無事実施の運びとなった上、成功裏に終えることができました。

また、子どもたちは、毎日の学習や学校生活の中で、学力を高めたり、友だちとの良い関係を築ける力を身に付けたりできるように、先生方の指導のもと、力いっぱい励んできました。

1学期を振り返って、心より嬉しく思うのは、森上小学校では、交通事故に遭う子がいなかったことです。先日、市内の2年生の男子児童がキックスケーターに乗っていて、信号の無い交差点で車と出会い頭に衝突し、意識不明の重体になっているというニュースは、お聞き及びかと思えます。気をつけてはいても、事故はいつ起きるか分かりません。また、事故（事故だけに限りませんが）は、その当事者だけでなく、周りの人も不幸にしたりつらい気持ちにさせたりします。そういうもろもろの意味で、森上小学校では大きな事故が無く、子どもたちが元気に毎日を過ごせたことを有り難く思います。

お家の皆様のご協力があったのたまものでもあります。本当にありがとうございました。



<頂上を極めた満足感・爽快感！>
5年 峰の原自然体験学習

<キックスケーター・ボード> 緊急調査結果

道路での使用はやめよう

	所有	使っている
1年	13	9
2年	14	8
3年	24	9
4年	5	4
5年	23	4
6年	14	8

左表をご覧ください。上記の交通事故を受けて、22日（木）にキックスケーター及びキックボード等についての実態を調べた結果です。

ほぼ、1/4の児童の家庭にあり、1割ほどの子どもが使っている実態があることが分かりました。交通のひんぱんな道路で乗ることは、道路交通法で禁止されています。くれぐれも安全な使用を心がけさせていただければと思います。

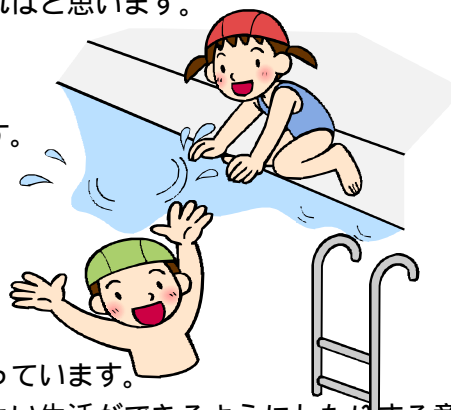
夏休みを有意義なものに

さて、明日から8月19日（木）まで、夏休みになります。

暑い時期でもあり、子どもたちの集中力もなかなか高まらないかもしれませんが、長期休みの利点を活かし、普段あまりできない家族のふれ合いや家のお手伝い、また休みならではの体験活動など、それぞれのご家庭でできることを計画していただければと思います。

子どもたちの心に素敵な思い出が残る休みになるよう願っています。

学校では、今年、子どもたちの泳力を高めたり、きまりよい生活ができるようにしたりする意味を持って、プール開放の日数を増やしてあります。健康な体づくりのために、学校のプールも大いに利用させてください。



活発なPTA活動に感謝

人権委員会主催の人権教育講演会 13日(火)

演題「私をいつも一番近くで見守り、支えてくれた母」

講師 山城峻一さんと 美記代さん(峻一さんのお母さん)

講演の要旨

生後3か月で病気と分かり、手術を受けた。医者からは、「一生運動はあきらめて」と言われた。母が暗い顔でいると、父が「そんな顔をしていると子どもまで暗い顔になるぞ。」と言われ、母は、「明るい顔で育てなきゃと思った」という。

保育園は居心地が良かったが、小学校では、様々なあだ名を付けられたり嫌なことをされたりした。我慢していたが、気持ちは晴れなかった。5年の時、感染症で、3日ほど昏睡状態に陥った。その時、うわごとのようにつぶやいたことを父親が書き留めてくれたのが、本日紹介した詩(略)だ。小学校の卒業を前に、先生と気持ちがかみ合わず、ある出来事があった場面で、「先生、それ以上言ったらぼくは自殺する。」と宣言。帰宅してそのことを母に話すと、母は保育園時代からお世話になっていたある先生のところへ連れていってくれた。その先生が、自分をぎゅっと抱きしめ、話を聞いてくれた。その先生から諭され、気持ちが落ち着き、自分を理解してくれる人がいることを嬉しく思った。また、その先生のところへ連れていってくれた母に感謝した。

中学時代には、卓球部の正副部長に理由が分からないまま暴力を振るわれる場面があった。友だちが助けてくれ、顧問の先生が、謝罪の会を開いてくれた。その場で、なぜ正副部長が暴力を振るったのか分かったし、謝ってもらったことが嬉しかった。それまで、いつも悪いことは自分のせいとされ、他者から謝ってもらうということが一度もなかったのも、その顧問の先生にも感謝している。

支えてくれた人がいたことで生きてこられた。

今でも、昔受けたいじめを思いだし、悩まされたり不安になったりする。いじめは一瞬でも、受けた人にとって悩みは一生。いじめの解消は、子どもだけではできない。大人も一緒になっていじめに立ち向かう必要がある。無関心ではいけない。

お話される内容に、事実の重みがありました。出席させていただいた6年生の子どもたちにとっても、胸に刻まれるお話だったと思います。

教室で、家庭で、機会あるごとに、話題にしていきたいものです。

文庫委員会主催の読み聞かせ

文庫委員会の肝入りで、13日に高学年、15日に低学年と2回に分けて、グループ「たんぼぼ」の皆さんに読み聞かせをしていただきました。

演目は、大型の紙人形劇「かちかち山」と、切り絵の「花さき山」です。

「かちかち山」は、皆さんもご存じのように、昔話によくある勧善懲悪物。「花さき山」は、おもいやりとは何かということを考えさせられるお話で、読み終わって、ちょっと切ないけれど、温かな気持ちが残ります。

内容も読み聞かせの形も、対極にある二つのお話でしたが、語り口がしっかりしていて聞きやすく、子どもたちは、始まるやいなやすぐにその世界に引き込まれ、皆、身を乗り出すようにして聞いていました。

子どもたちは読み聞かせが大好きなことが、改めてよく分かりました。

